

地域に開かれた茅ヶ崎パーク～ゴルフ場から地域が育てるコミュニティガーデンへ～

ゴルフ場の緑地空間をそのまま維持し、ゴルフ機能だけでなく、市民が集う、にぎわいと交流の受発信基地として「ゴルフパーク」を提案します。ゴルフをより人々に親しみやすい存在とし、同時に市民や地域住民の様々なアクティビティを担う場所として位置づけます。また地域住民のコミュニティを育むための核となる場としてホテルを計画し、首都圏からそして観光で訪れる人々を受け入れます。災害時には周辺住宅地の広域避難場所となり、地域の災害拠点として機能する場を計画します。



海と緑を活かした湘南スタイルのアウトドアライフスタイル

湘南の海と連携した**広大な緑地空間を利用したアウトドアレジャーライフ**を提案します。茅ヶ崎は比較的夏は涼しく、冬暖かい気候のため一年を通してアウトドアやレジャーに最適です。一年を通して、様々な遊びや趣味などのアクティビティを想定し、**多様な利用方法を生み出し、市民に愛される場所を計画**します。

地域に開放する健康と癒しを与えるネイチャー空間

海辺にあるゴルフ場の広大な緑地は、**地域の貴重なオープンスペース**であり、都市部における緑の財産といえます。この**ゴルフ場の持つ価値を維持しながら、地域に開かれた誰もが利用できる場所**を計画します。ゴルフ利用者に限らず、利用時間をプログラムしながら、広大な土地を地域の子供からお年寄りまでが利用できるように開放します。ウォーキングやランニング、ヨガなどの運動を楽しみ、**大人から子供まで自然と親しむことができるオープンスペース**を形成します。

人々のためだけでなく多様な生物が生きる共存の森

既存のゴルフ場の緑地空間は、近隣エリア内には類のない緑地ヴォリュームを保持しています。この緑のヴォリュームを維持しながらも、これまでの限定された種類の植樹空間ではなく、**ゴルフに支障のない範囲で多様な生態の生息地**となるよう、既存の樹木に捕植していきます。虫や鳥や動物などが生息できる緑地環境を整備し、**植物や様々な生き物を観測することができる都市のオアシス**を計画します。

地域の核となるコミュニティスペース

茅ヶ崎には様々な市民団体や活動団体があります。広大な敷地環境を利用して、地域活動をつなぎ、**人と人のつながりを育む場所**として位置付けます。

首都圏の人々や観光客にも話題を呼ぶ海と緑のリラックスパーク

海と緑に囲まれた茅ヶ崎パークは、首都圏の人々や観光客にとっても類のないパークであり、集客を見込みます。**ホテルを核としてイベント等を開催**することによって**茅ヶ崎の観光資源を発信**していきます。

茅ヶ崎の住民と文化を守る広域避難拠点

木造家屋密集地域の茅ヶ崎市南部に最大クラスターが集結しており、**茅ヶ崎ゴルフ場は唯一残された広大な緑を伴う南部最大の広域避難場所**です。この避難機能を維持するために大規模な開発は避け、被災時に住民を守る地域の防災拠点場所として残します。住宅地周辺の緑地は必要に応じて捕植し、防火帯として機能します。更に災害時に備えて、災害支援活動や避難スペースを確保し、**太陽光や風など自然エネルギーを利活用した装置やフォリーの設置**などによって災害拠点となるパークを形成します。

サステイナブルな循環型社会のモデルパーク

持続可能な循環型社会のモデルとしてパークを計画します。パーク内には様々な仕掛けを施します。ホテルや近隣住民の家庭から出る生ゴミをコンポストしてつくる菜園ゾーンをつくり、敷地内の電力を極力自然エネルギーで補います。

現ゴルフ場の利活用による多様なアクティビティの創出

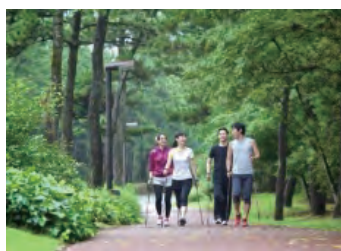
茅ヶ崎は、様々なアクティビティが根付いているエリアであり、ゴルフ以外のスポーツやキャンプなどのアウトドア、家庭菜園など、パーク内で様々なアクティビティが展開できるように計画します。地域の人々、そして外来者向けの企画やイベントを定期的に行い、ホテルは地域交流の拠点として役割を担います。また、ホテル内に多目的に使える空間を用意し、市民が主体となった様々な活動の展開を手助けします。様々な人と人のつながりが生まれ、新たなにぎわいが創出されることを期待します。



青空コンサート（イメージ）



グランピング（イメージ）



早朝ウォーキング（イメージ）



野外シアター（イメージ）



湘南市民マルシェ



様々なアクティビティ

NPO法人や大学と連携し、地域社会へ貢献

人や情報の結節点として、市民が安心して集える生活の拠点を計画します。どの世代（子育て高齢者など）も気軽に集えるような交流会を実施し、地域のコミュニティスペースとしての役割を高めます。「茅産茅消」を目標とし、ホテル敷地内で、野菜などの栽培を行います。また地域の大学、企業、NPO法人など各団体・機関とも積極的に協力し、「茅ヶ崎パーク」をフィールドワークや研究の場として活用します。周辺の幼稚園や小学校には、地域の自然観測の場を提供します。その他、地域の方が気軽に利用できる「茅ヶ崎ファーム」を設置し、市民であれば、月額を支払うことで、家庭菜園を自由に楽しむことができる農園を設けます。



市民に向けて菜園（ファーム）を提供

例えば・立教大学湘南キャンパスの学生、ゼミなどの協力



地域みんなで育てる茅ヶ崎ファーム

地域で育てるコミュニティスペース

住みやすい環境（＝安全な街）、市民の流入を促す環境をつくり、住みたくなる仕掛けをつくります。ホテル内に「コミュニティスペース」を設置し、地域の老人から子供までが定期的に交流する場を設けます。そこで、老人が子供たちに紙芝居を読み聞かせ、木のおもちゃを使った伝統的な遊びを一緒にするなど、老人世代から子供世代まで文化を引き継いでいきます。若いママたち子育て世代にとっても、子育ての先輩との交流ができ、世代を超えた交流が実現します。また敷地全体を「コミュニティガーデン」として捉え、一部のエリアの緑地の管理を地域住民団体に委託し、クリスマス時のイルミネーションの飾り付けを近隣地域の各町内会単位で行うなど、地域コミュニティをつなげる企画やイベントを継続的に行います。



茅ヶ崎のコミュニティ中心地へ

循環システムの構築

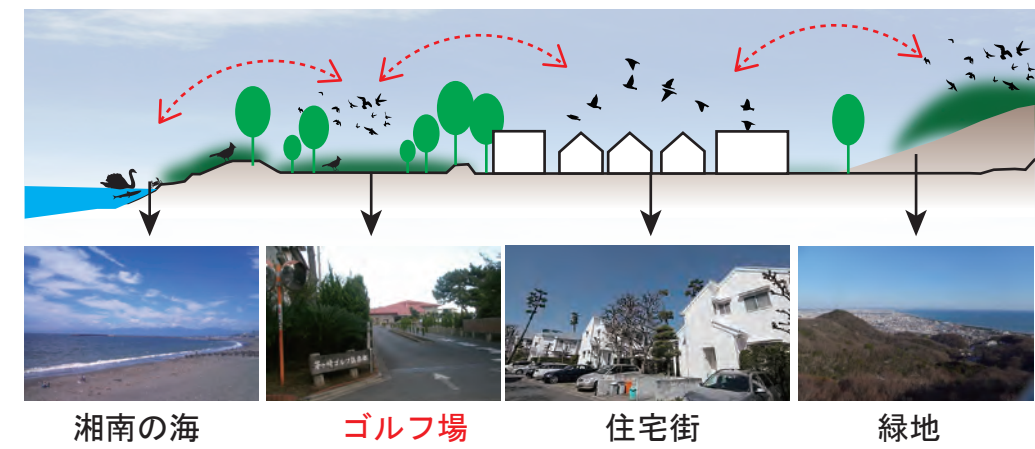
持続可能な社会に向けた取り組みの一つとして、施設内または周辺地域からでる生ごみや、廃食用油などを再活用し、コンポストや飼料や肥料として使用することを検討します。また自然エネルギーを利活用した先進的なフォリーを敷地内に計画し、一部のエネルギーの自給自足を促します。循環型社会の形成や都市活力の向上を目的に、自然の力を有効に活用する仕組みづくりを初期整備段階から構築すると共に、近隣の団体による環境関連活動の支援や促進を継続的に行っていきます。



コンポストを利用して育てる作物

生物多様性の実現

ゴルフ場の緑地空間を科学的な視点で段階的に調査し、徐々に多様な生物が息づく森へと遷移していうように計画します。ゴルフに影響のない範囲で、高木層に加えて、亜高木層、低木層、草木層を整備し、地域種を主とした植物の多層な階層構造を形成し、多様な生き物の住処となる「共存の森」を構築します。季節に応じて、野鳥観測会の実施や昆虫採集のワークショップなど生物多様性を理解してもらう多様なイベントや勉強会を企画します。更に運営面では、農薬の使用をゴルフ運営の必要最低限とし、人々や生き物にとっても安全で安心できる場を構築します



散策するアートパーク

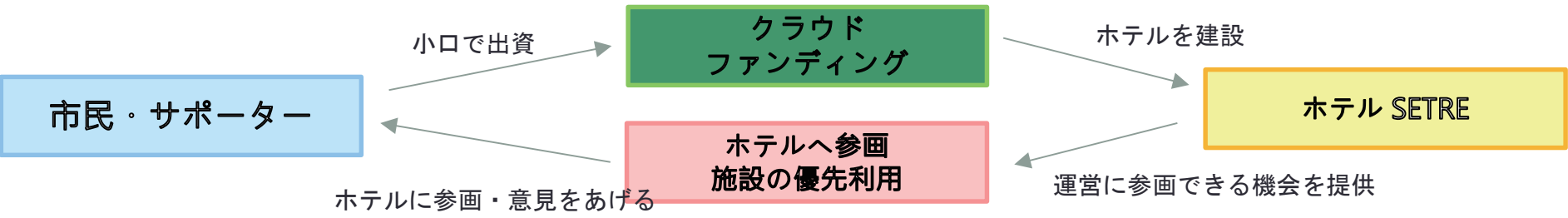
近隣住民、来訪者が場内を歩いて楽しめるコンテンツとして、パーク内に自然と呼応する屋外アート作品を配置します。地元のアーティストや湘南に由来のあるアーティストの作品展示の場とし、周辺のギャラリーやショップ等とも連携させます。またホテル内にもギャラリースペースをつくり、外と内をぐるっと巡ることができるアートスペースです。



道沿いにあるアートスペース

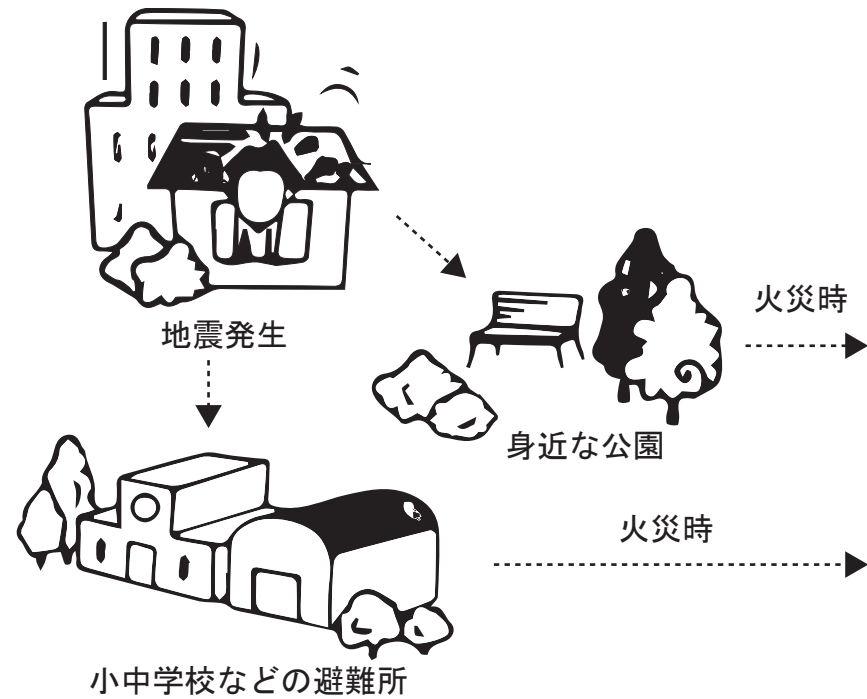
地域クラウドファンディングで地域に愛されるホテルへ

建築費用の一部をホテルや、地域を応援したいサポーター（市民）の皆様から集めることを検討します。自分たちの「MY ホテル」として愛着を持ち、より施設を活用する動機づけにすることで、施設・周辺一帯の活性化につなげていくことを狙います。



災害に強いまちづくりの拠点として

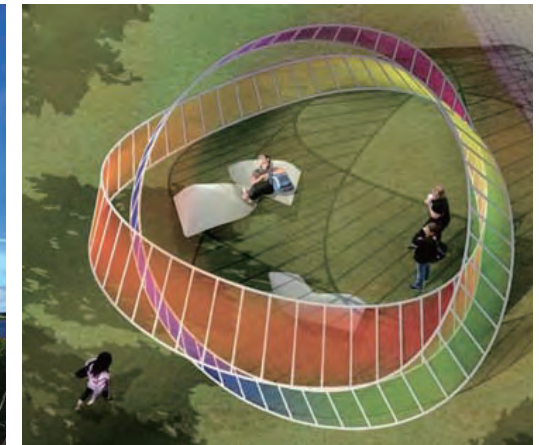
茅ヶ崎市のクラスターは、県内最大規模といわれており、大規模な火災に発展する危険性が高い都市構造だということが、平成 20 年度に市が実施した「地震による地域危険度測定調査」によってわかっています。よって万が一火災が発生した場合、危険が収まるまでの間、一時避難する場所として広域避難所の確保は非常に重要であり、現状ゴルフ場空間を活かし 120000 m²以上の避難空間を確保します。



茅ヶ崎ゴルフ場 茅ヶ崎下最大の広域避難所



かまどベンチになるファニチャー



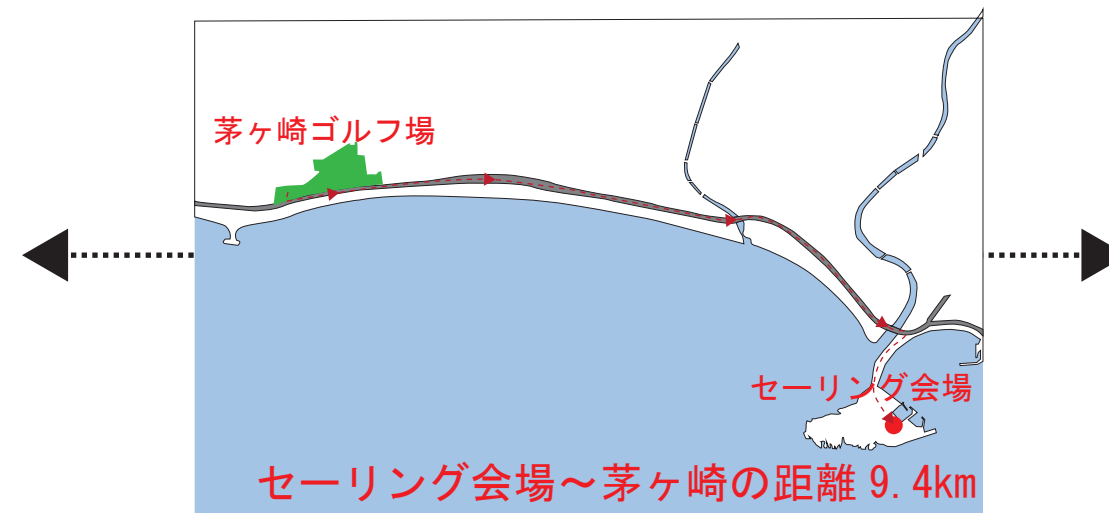
自然エネルギーを利用したフォリー

オリンピック大会やワールドカップのひとときの休息の場として

オリンピック競技大会、ラグビーワールドカップの時期には、観光客や選手、関係者など外来者が、ほっと息をつける癒しの空間を提供します。そのためにホテルやゴルフ場を通して、茅ヶ崎の魅力が伝わるような地域色が現れた空間やイベントなどの提案を行い、茅ヶ崎スタイルの魅力を様々な人に実際に体験してもらい認知してもらうことを期待します。



セーリング競技



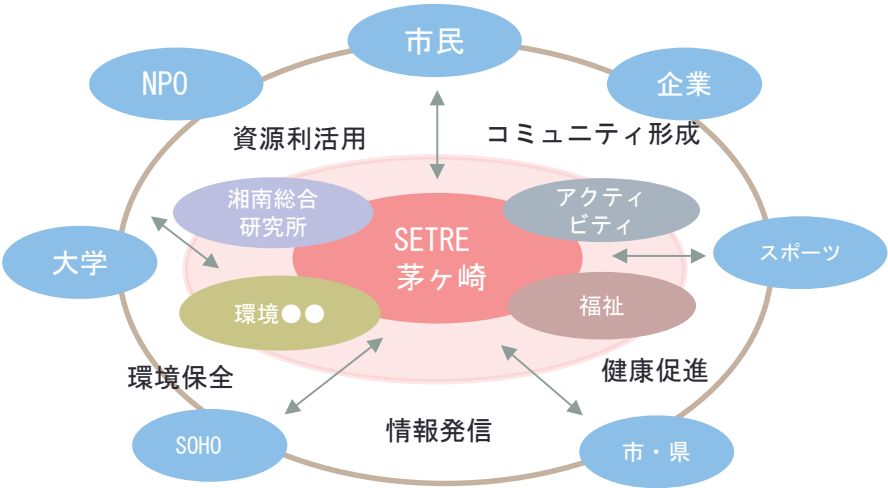
オリンピック時は選手や関係者の休息場へ

みどりの空間による周辺地域との関係性



現ゴルフ場を残しつつ地域に開く

未来に向け「自然と共により」ライフスタイルを目指し、自然環境、草木との一体感などを基本とします。茅ヶ崎市内の中でもゴルフ場は広域なみどりの空間が残る場所であり、災害時には避難場所となる重要な場所です。「広域避難場所を守る会」も結成されており、地域の人々にとっても重要な広域なみどりの空間です。また、スポーツの場所としてすでに親しまれているゴルフ場を残しながら、広く市民に利用してもらえるように解放しスポーツやアクティビティが行われる場所とします。



緑地率

地域にとっての緑地として現在のゴルフ場を残すため、緑地率はほぼ現在と変わらず〇〇%以上となります。それだけではなく、現在の植生環境を見直し、茅ヶ崎の生物にとっても居心地の良い場所として緑地の改善を行います。



国道からの接続と駐車場の整備

国道からの接道はホテル前に設けます。また、イベント時用の駐車スペースを西側の広場に設けることで、現在の緑地を破壊することなく駐車スペースを作っていきます。



茅ヶ崎公共下水道幹線の接続使用

※要調査





ホテルエリア

茅ヶ崎の市民や情報が集う交流拠点としての環境を整えます。 するために現クラブハウスとその周辺の敷地を利用して、改修や増改築を行います。「茅産茅消」を目標として、ホテル敷地内では野菜の栽培を行い、大学や企業のフィールドワークや研究の場として活用できるような場所をつくります。また、「コミュニティスペース」を設置し、地域の老人と子供が交流する場を定期的に作ります。例えば、ホテルの玄関ホールにカフェやバーラウンジをつくり地域のコミュニティスペースとしての役割を高めます。



既存のクラブハウス



景観を望む



自然と建築の中間領域

ウォーキングコース

ゴルフ場内の既存のコースを利用し、起伏のあるウォーキングコースを整備します。起伏により、シークエンスの変化と、海の音、風の音、木や虫の音など自然を感じながら歩くことができます。普段から利用できるウォーキングコースは災害時には避難動線ともなるので、地域に開放することで、非常時にも安心して非難が出来ます。また、ロードガーデンの計画や草木と共に歩行者道への庭園灯やフットライトなどの光の演出により、明るすぎず、安全で柔らかな連続性のある夜間景観を形成します。



既存の歩道



フットライト



ロードガーデン

グランピングエリア

豊かな自然の中でスポーツやアクティビティを楽しめるゴルフ場という環境を利用して、グランピングを楽しむことができます。BBQなどで出た生ごみはコンポストとして、敷地内の緑地の肥料となり、環境にやさしい循環するシステムを構築します。自然をたっぷり感じられる、非日常的癒しの空間を提供します。



倉庫・フォリー



グランピング



BBQ

菜園エリア

地域で育てる緑地を目指し、茅ヶ崎ファームとして市民が利用できる貸し農園や、レストラン内で使用する野菜をつくる畑を計画します。菜園を通して、自然とのふれあいや、そこで出会う人とのコミュニケーションの場となります。また、ガーデンミュージアムの具現化に向けて、空間を創ることから育てることまでの活動を、市民が主体となって組織化して取り組んでいきます。

例) ガーデニング＊講座への参加・ガーデンデザイン（設計）への参加・ガーデン育成、メンテナンスへの参加



空地



田畑と共存するフォリー



茅ヶ崎ファーム

ゴルフ場を利用したプログラムとプログラムごとの使い方

週末の日曜日はゴルフ場全体を利用したイベントや地域に開放します。

開放日ごとにアクティビティも変化ができるようにし、訪れるたびに変化を楽しめます（様々な体験ができる）。

Ex) グランピング、ウォーキング、アート展示、オープンカフェ、商店街からの出店



ゴルフ場全体を利用するアクティビティ

・グランピング

休日に家族や親戚・友達と気軽にグランピングやBBQができます。

茅ヶ崎で取れる新鮮な魚介類を中心とした食を楽しめます。

・ウォーキング

子供からお年寄りまでが気軽に散歩コースとして敷地を回遊することが出来ます。

・サイクリング

整備された道で、歩行者と回遊する動線を分ける事で、快適なサイクリングができ、浜辺から連続的に緑地へのサイクリングコースが楽しめます。

・ピクニック

天気のいい日には広大な緑地で快適なピクニックができます。



グランピング



ウォーキング



サイクリング



ピクニック

ゴルフ場の一部を利用するアクティビティ

・菜園

地域の方でシェアして育てる茅ヶ崎ファームを計画します。菜園を通して茅ヶ崎のコミュニティネットワークを強化します。

・屋外ライブラリー・展示会

茅ヶ崎の文化を発信する場として機能します。また、国道からの車の騒音は防砂林や植物帯によって軽減され自然の中で読書が出来ます。

・スポーツ ヨガ フィットネス

広大な緑地を利用したスポーツやヨガ教室を開催します。

・サーフィン

茅ヶ崎の海も近く、サーフィンをする際も、気軽に行くことができ、海と緑が楽しめる場所となります。



菜園



屋外ライブラリー・展示会



スポーツ



ヨガ



サーフィン

夜間行うアクティビティによる施設利用

夜に施設を開放することで、大きな緑地で行う天体観測や屋外シアターなど、夜間ならではのアクティビティを行えます。



ゴルフ場全体を利用するアクティビティ

- **花火大会 夏**
サザンビーチで行われる花火大会時には高層マンションなどの障害物なく花火を望めることができます。また、道沿いに出店が並びます。
- **夕涼み会 夏**
地域住民が集まり大きな夕涼み会を開くことができます。
- **秋祭り 秋**
地元に根差した祭りを開催し、紅葉や茅ヶ崎の秋の味覚を発信します。
- **イルミネーション 冬**
茅ヶ崎の文化を発信する場として機能します。また、国道からの車の騒音は防砂林や植物帯によって軽減され自然の中で読書が出来ます。



ゴルフ場の一部を利用するアクティビティ

- **シアター**
ゴルフ場にあるネットをデザインし、夜間はシアター上映会を行える場所となります。
- **天体観測**
広場と連続する海により、障害物なく夜の星を望めることができます。
- **音楽パーティ**
アコースティックコンサートやジャズコンサートなど涼しげな潮風や波音の下で音楽を楽しめます。
- **ビアガーデン**
緑に囲まれた場所で、夜空の下、BBQ やビアガーデンを行います。



災害時における施設利用

広域避難所として既存の状態を保持しつつ、自然エネルギーを活用したフォリーやかまどベンチになるストリートファニチャーによって、災害時にも対応できる避難施設とします。



火災時

緊急物資の供給基地 約 2500 m² × 4

- ・災害時にフォリーやホテルが避難場所となります。
- ・自然エネルギーを活用したフォリーや釜土ベンチになるストリートファニチャーによって災害時にも対応できます。

自衛隊の駐屯地 約 40000 m²

- ・敷地中央の広場に自衛隊の駐屯地が置くことが可能であり、災害時のトイレやシャワーなどが利用しやすくなります。

緊急ヘリポート 約 5000 m²、消防隊の宿泊 約 1500 m²

- ・駐車場のスペースを利用しヘリや建設機械などを駐車できます。



津波時

一時避難場所

洪水時はアスレチックゾーンである高台とホテルの屋上部分に避難します。

ホテル屋上 600 m²

一時避難場所として、施設で働く方やお客さんがいち早く非難できる場所です。

ホール 20000 m²

ハザードマップより津波被害が避けられるこの場所には近隣住民にとって身近な避難場所となります。

ホテルとフォリーを中心とした建築物

ホテルの増築と小さなフォリーやストリートファニチャーを中心にデザインします。

フォリーは、ゴルフ場で古くなった小屋を改修し、自然エネルギーや災害時に利活用できる機能を計画し、日常・非日常共にアクティビティの中心となります。ホテルは 10m以下の低層にしてゴルフ場のアクティビティを眺められるホテルで、大学や企業と連携した研究や会議、地域の人々のコミュニティスペースを確保します。

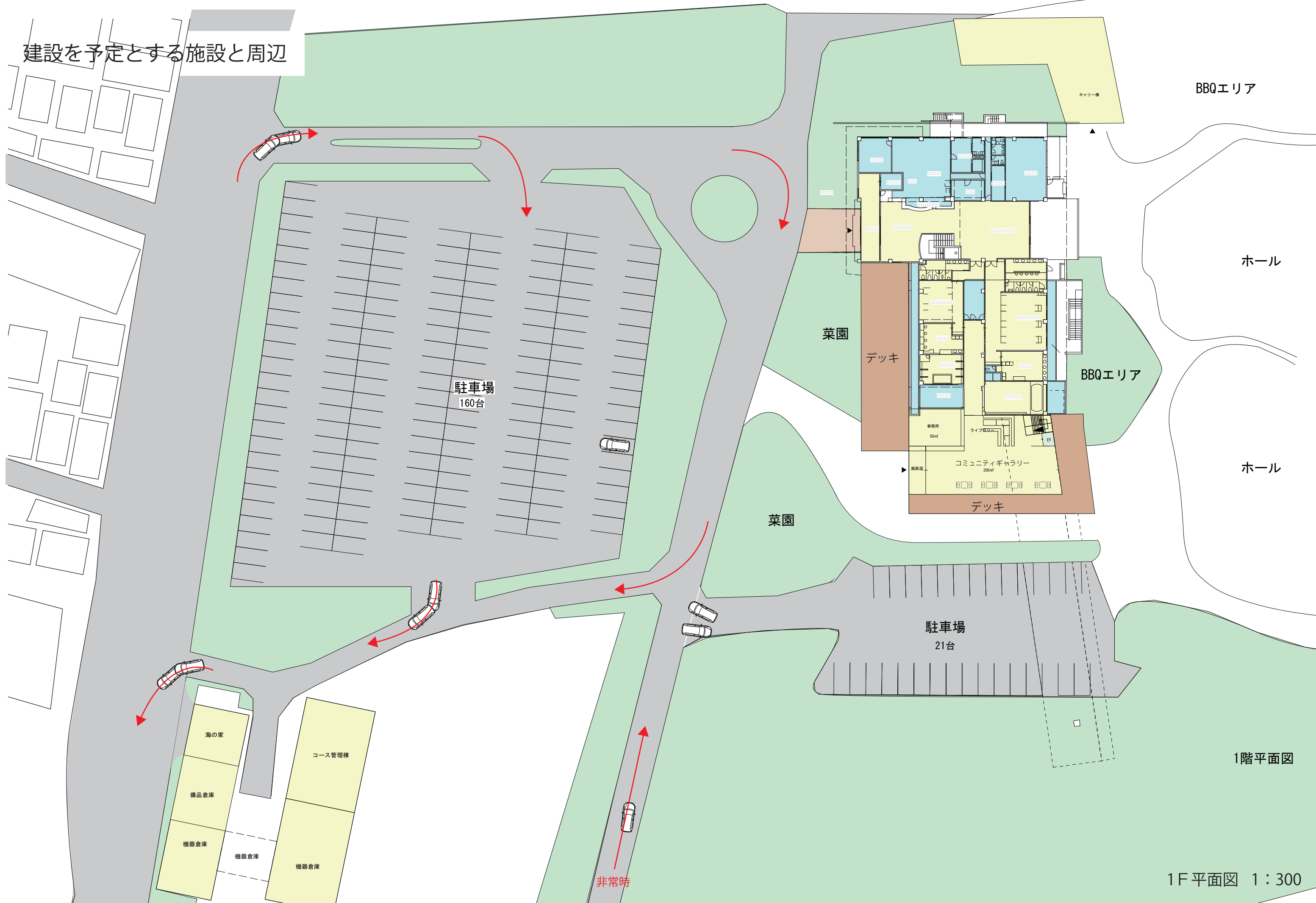


ゴルフ場から見る



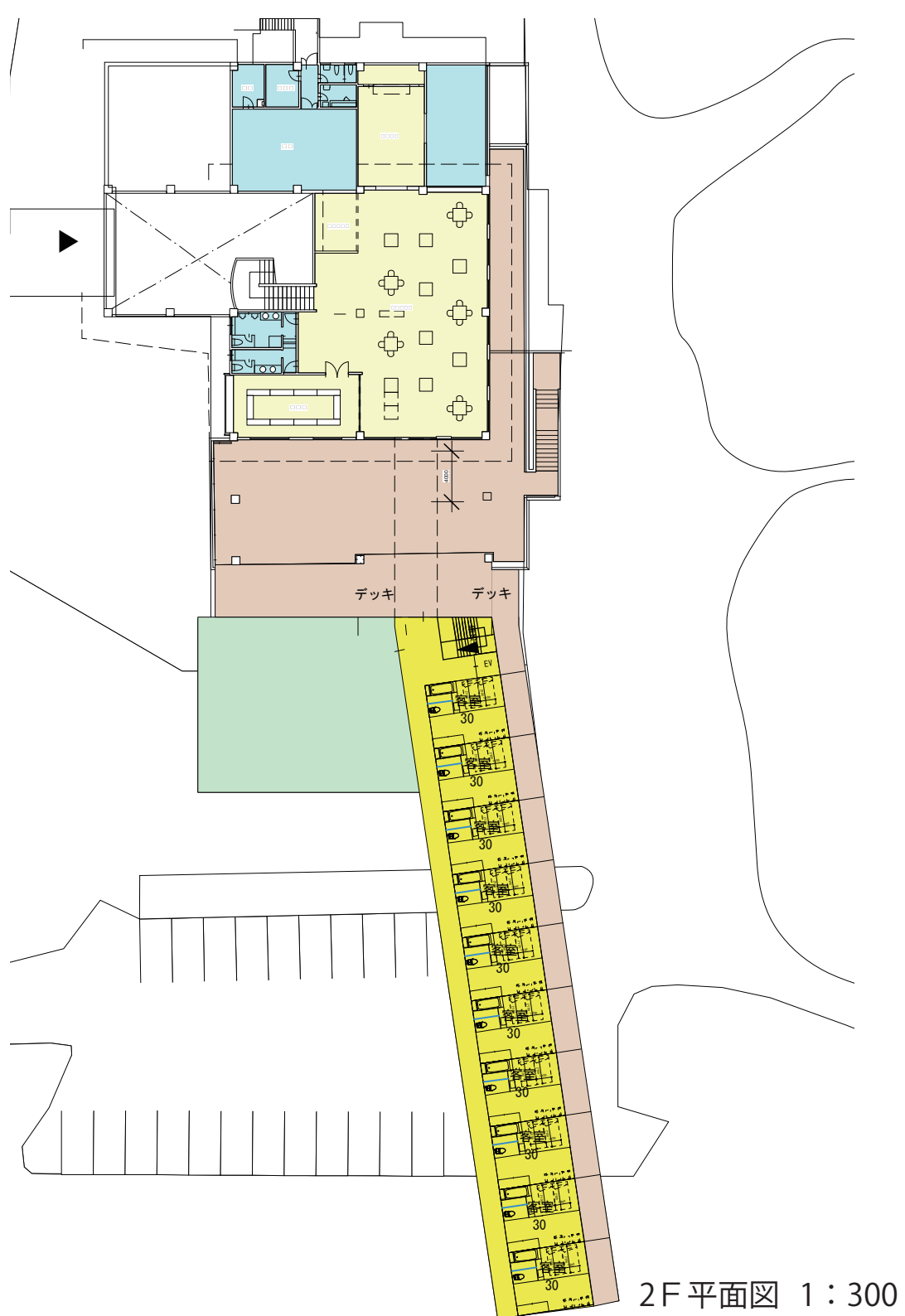
鳥瞰図

建設を予定とする施設と周辺



1階平面図

1F 平面図 1 : 300



2F 平面図 1：300

広大な緑地に建つ自然と共存するホテル

活動を支える支援作り

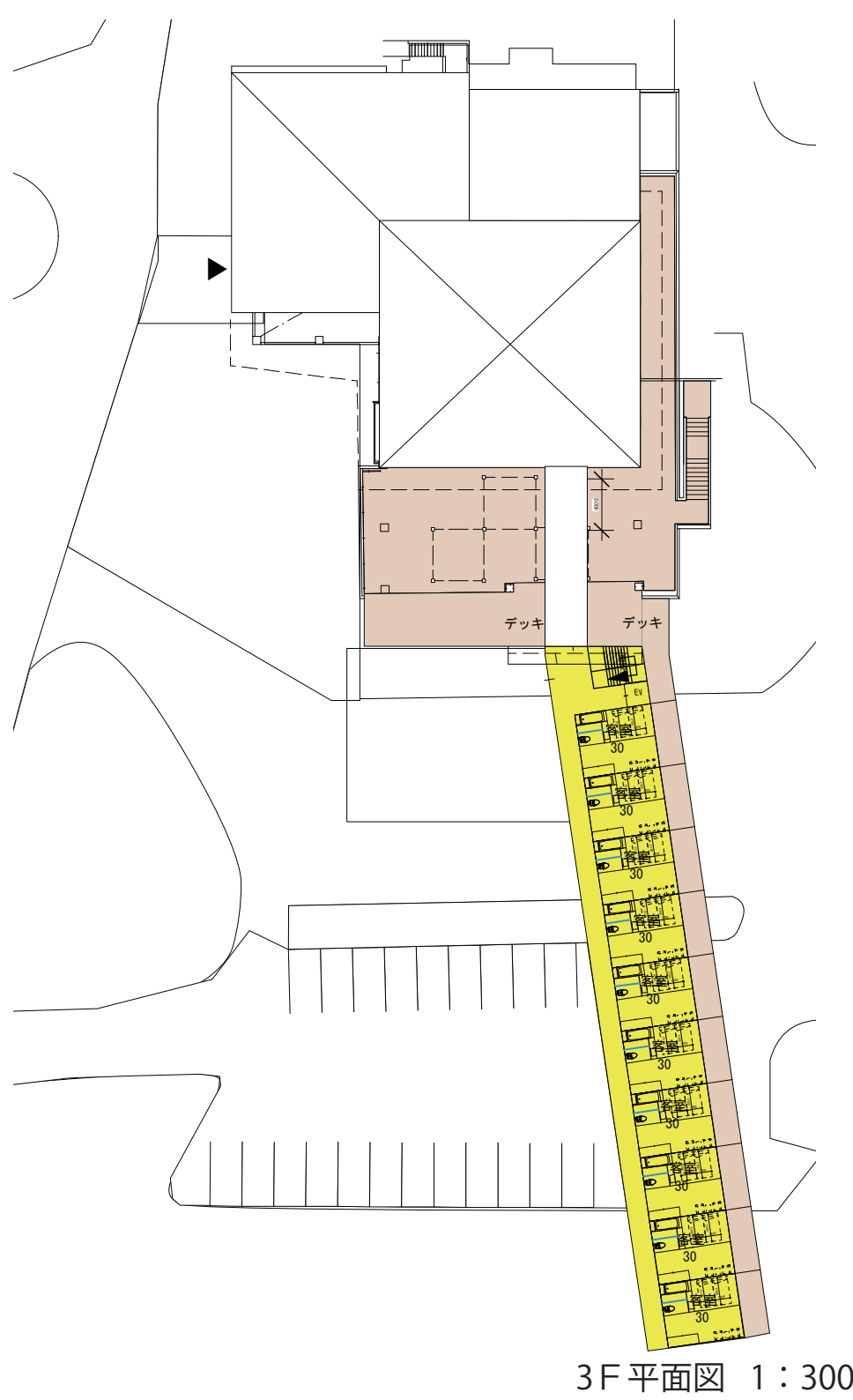
様々なアクティビティの運営や設備を整えます。一階のラウンジでは茅ヶ崎の情報発信やコミュニティが行えるスペースを計画します。

豊かな景観

レストランや客室からは広大な緑地が見渡すことができます。

オープンな施設

ホテル前のエントランスには地域に開放した菜園スペースがあり、気軽に地域の方が集うことが出来るスペースを確保します。宿泊施設は外部から来る人々のためのイメージがありますが、今回計画するホテルは、茅ヶ崎の魅力を茅ヶ崎の人々と作り上げ、発信することを目標とします。



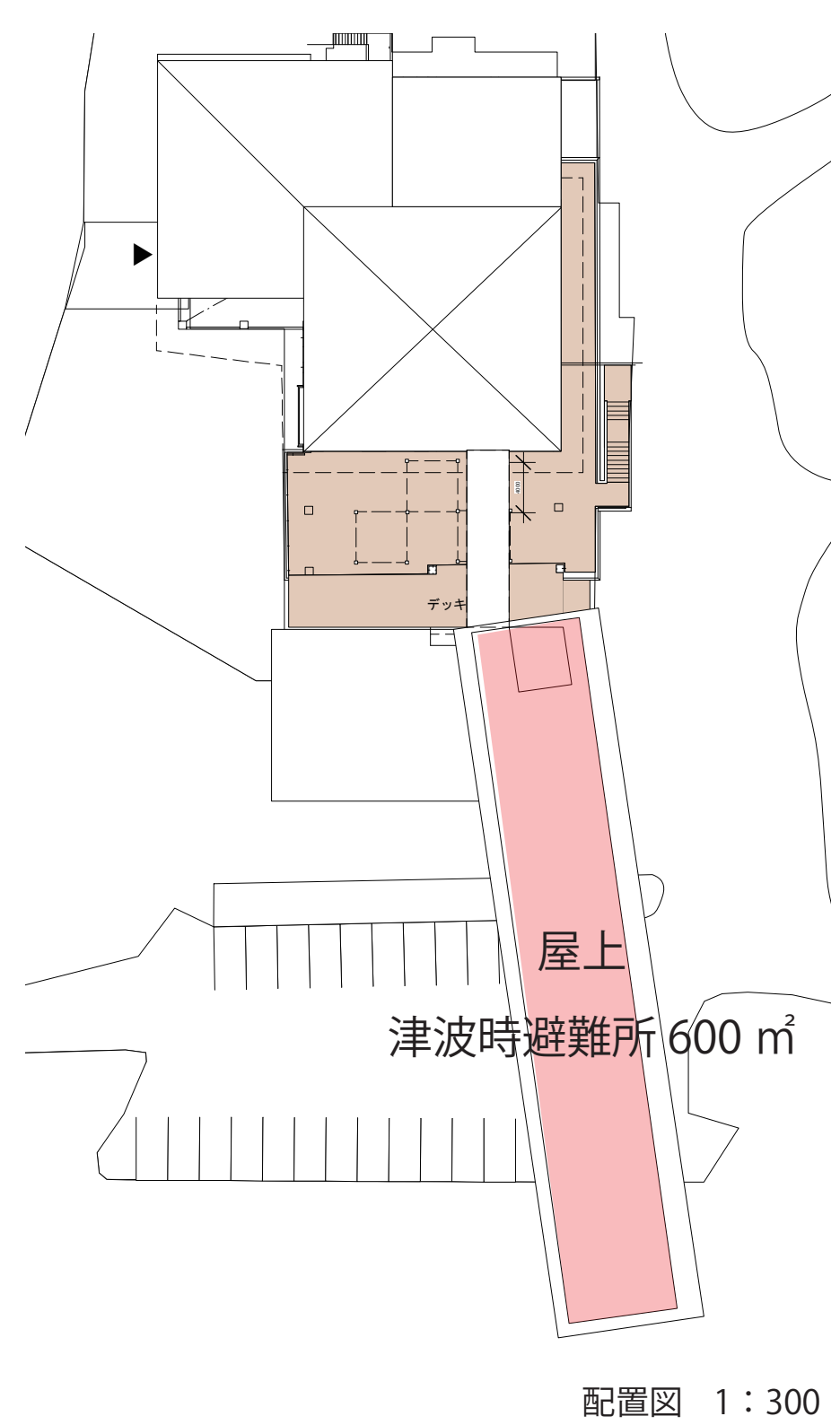
3F 平面図 1：300

改修と増築

既存のクラブハウスは改修を行い、ゴルフ場のエントランス機能の他、レストランや銭湯を地域の人々やホテルのお客さんに開放します。また、増築部分からもレストランと銭湯に接続させることで、宿泊客にとっても快適な動線をつくりだします。

客室

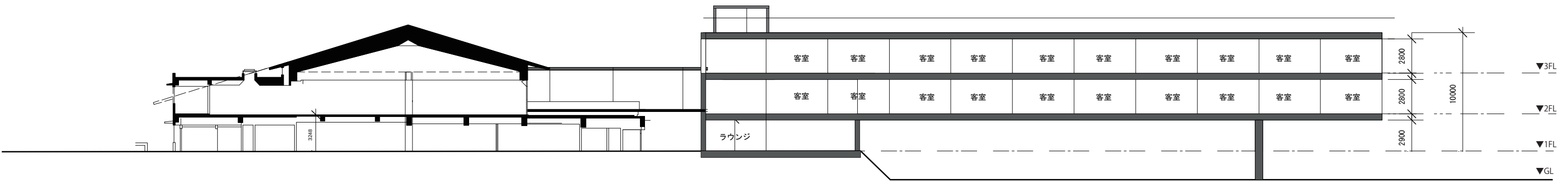
客室は 2,3 階スペースに全 20 部屋設け、どの部屋からも緑地を望めます。



配置図 1：300

断面計画

現状の建築物と各階で接続させます。また、屋上は洪水時における避難場所として 600 m²確保します。



客室



ラウンジ



正面

ストリートファニチャー

施設全体に設置するベンチやデッキ、デスクなどのストリートファニチャーを設計する。人工的な幾何学的線形・造形はできるだけ避け、自然界をモチーフ（手本）とし、原則として木、石、土など自然素材（陶製、鉄製なども含む）を基本とします。

避難所近くのベンチには防災かまどの機能を持たせることなど、場所に応じたベンチ+αの設計を行います。



A. 防災かまどベンチ

避難所の中心地となる場所では、非常時にベンチからかまどやB B Qの土台となるベンチを計画します。被災時にはこのかまどでご飯を炊くことも可能になります。



B. 木製フェンス

フェンス等にも自然素材を活用し、子供が触れても怪我をしないものにします。また、月日と共に変化していくものを使用することで、地域の方に愛着を持って使ってもらえるものにします。



C. 花壇ベンチ

ボックス型のベンチや机が花壇やゴミ箱などの役割も果たし、統一感ある景観を構成し、花壇の中に座っている感じを味わうことのできるベンチを計画します。



D. 遊具ベンチ

子供の遊び道具としてのベンチを作ります。子供にとって遊具は遊び道具であり、創意工夫をする学び道具でもあります。敷地に点在させることで敷地全体が子供にとっての大きな遊び場となるように計画します。

フォリー

ゴルフ場に点在する現状のフォリーの改修を行います。

その際に、ゴルフのためだけではなく、自然エネルギーや災害時利用できる計画とし、その場所性にあった特性を持つフォリーを提案します。



現状



マルシェ

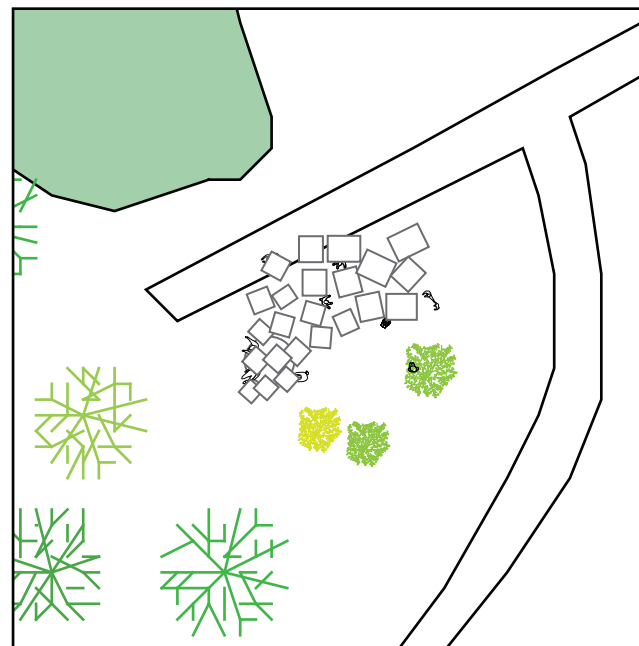
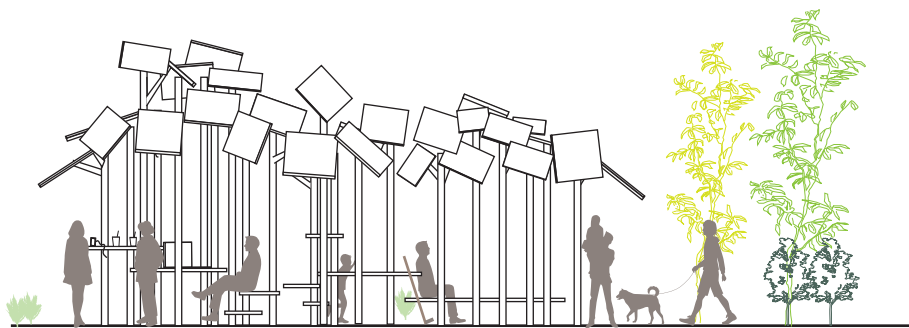


オープンカフェ



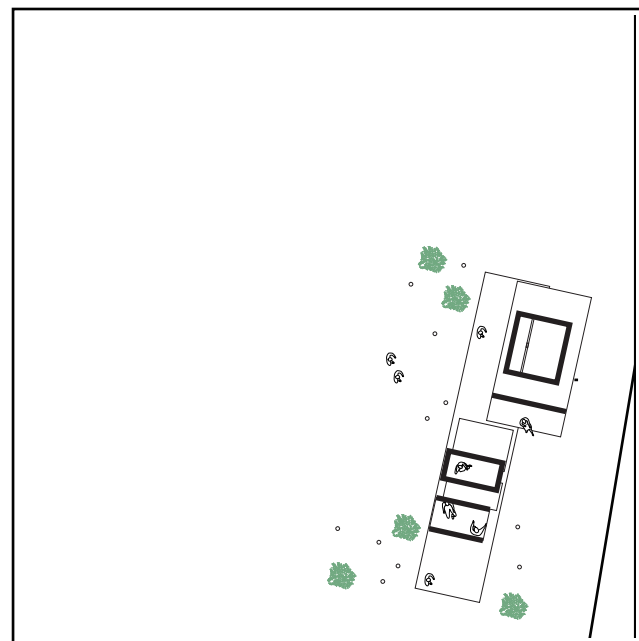
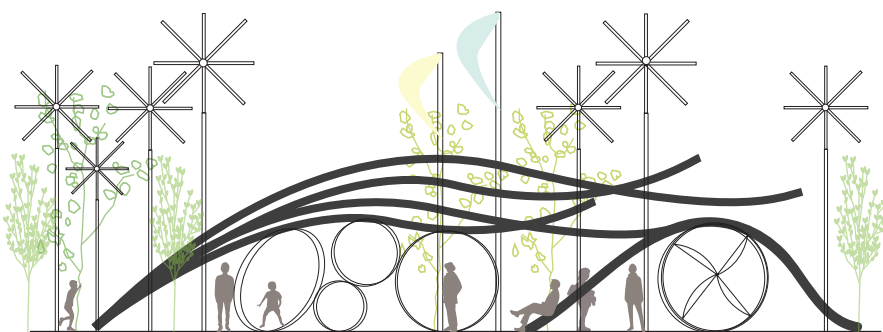
A. エネルギーフォリー（太陽光）

太陽光パネルのついた支柱が点在してできたフォリー。太陽光パネルは移動する太陽に合わせて一枚一枚方向が異なるデザインとなっています。。太陽光パネルでできた影がまるで木陰のような空間となり、心地よい休憩場所となります。



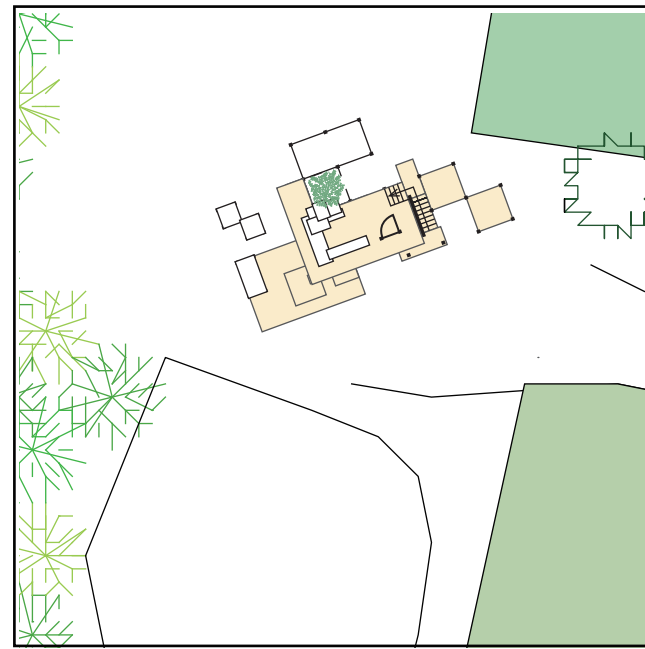
B. エネルギーフォリー（風力）

茅ヶ崎特有の湘南の風を可視化するフォリー。風力エネルギーを蓄え災害時や夜間のライトアップ等に利用できます。風力のフォリーには高さの異なるスラブがついており、小さな子どもからお年寄りまでだれでも座りやすい高さを探して休憩できます。



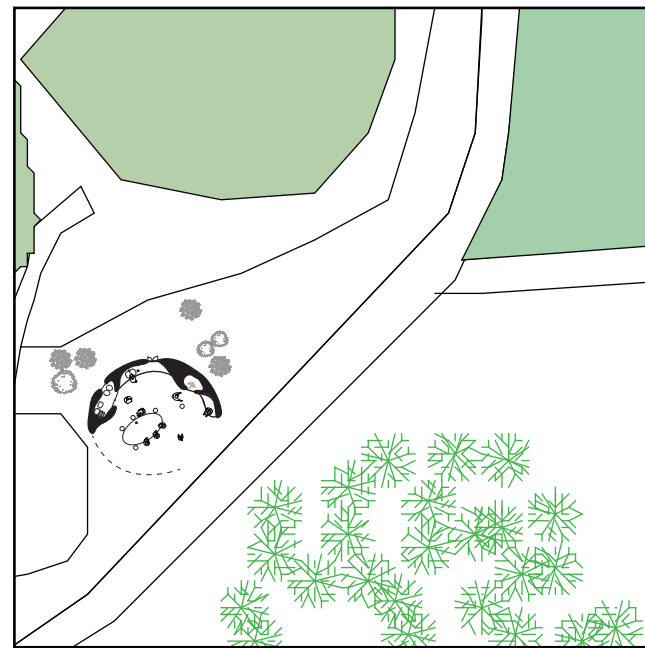
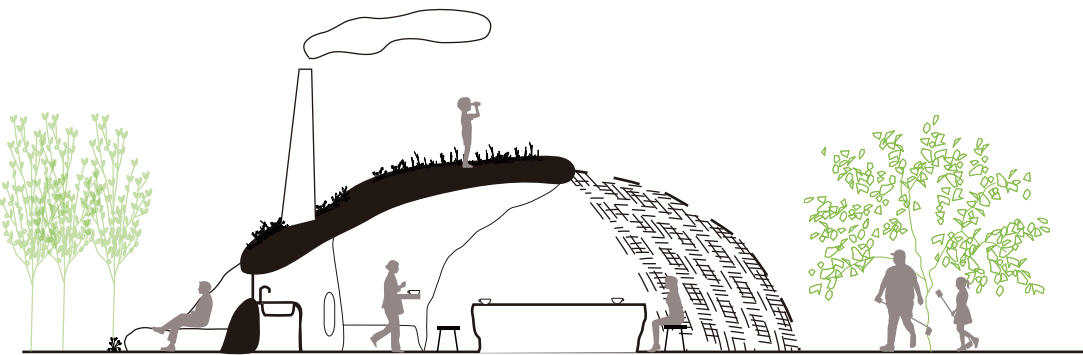
C, 菜園フォリー

菜園フォリーグリットに合わせて配置された支柱とスラブで構成されているフォリー。農具収納する倉庫の機能と温室の機能をもつ。支柱に幕をはるだけで温室空間がつくれるので、季節や規模に合わせて簡単にカスタマイズできます。



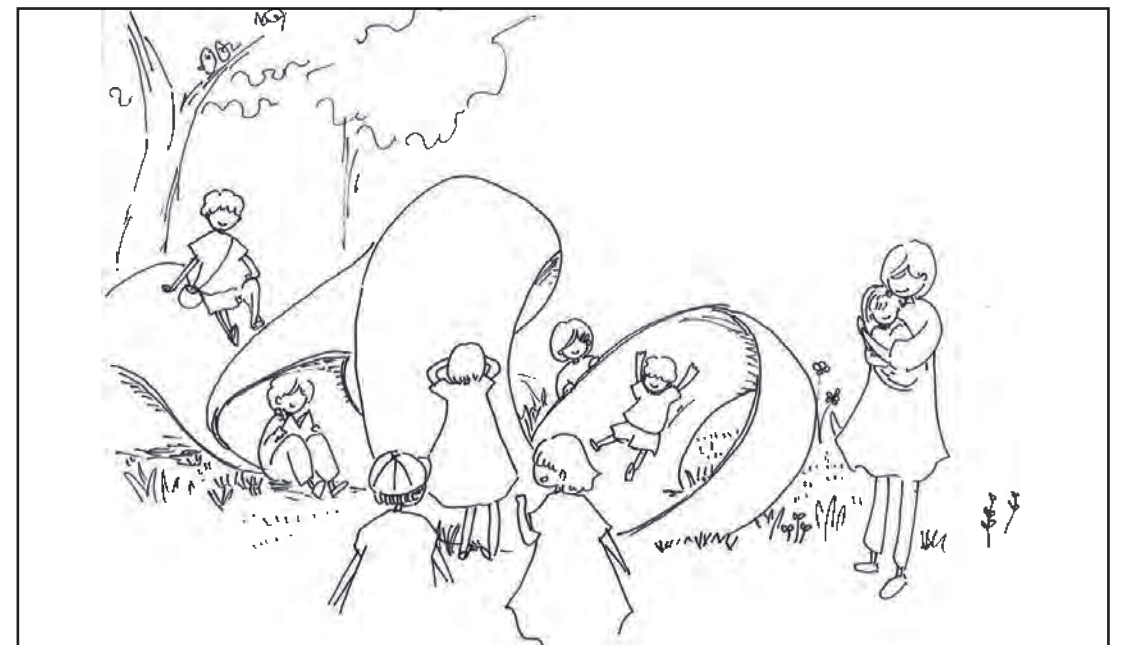
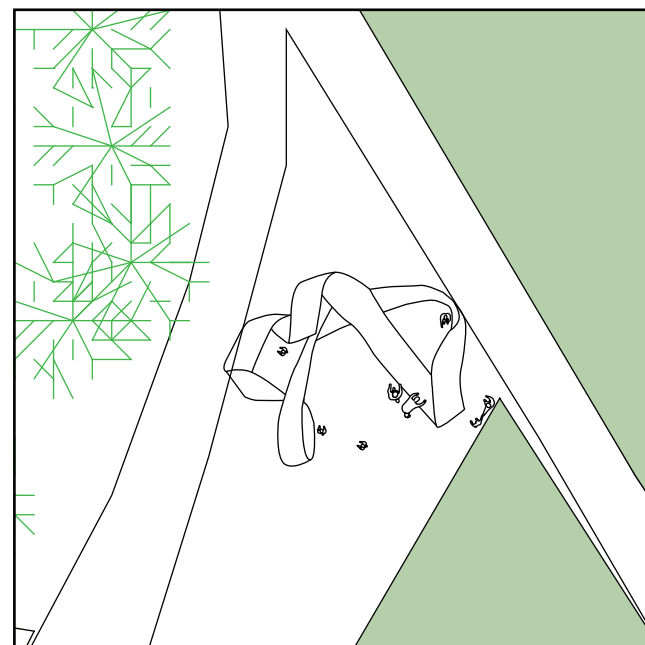
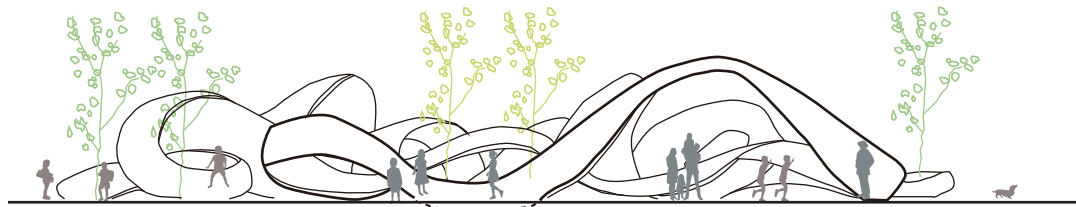
D. カフェフォリー

版築でつくられた土のフォリー。フォリーの内部には食料を保存する倉庫や道具収納スペースと、土で作られた椅子とテーブルがある休憩スペースがあります。フォリーの壁から連続してかまどを設けることで、キャンプ時の料理や災害時の炊き出しに活用できます。



E. アスレチックフォリー

湘南から吹く風をイメージし、ぐるりとひねったような形ですべったりよじのぼったりとフォリー自体が、こどもの遊具として利用できるフォリーです。
雨の日には曲面を利用して雨水をため池に貯めておくことができ、災害時に利用できます。







隣接地の住環境・景観への配慮

大規模な開発ではなく、地域に寄り添った公園として緑地の現状を維持することで、周辺の住宅にとって自分の庭のような感覚で茅ヶ崎の人々にとって愛着あるパブリック公園を目指します。



シェアする大きな庭

安全対策

計画地においては、なるべく自然素材を活用することや道の整備によって段差のない計画を目指します。また、茅ヶ崎における妊婦さんのためのピラティスなど、茅ヶ崎市民一人ひとりの生活リズムやスタイルに寄り添ったアクティビティを行うことで、安全で快適な生活を提供します。



スロープの利用

渋滞対策

走行時と比べて、排気ガスは約 50% 増量され、それによる空気の汚染が考えられます。
国道から直接敷地にアクセスしないことで、国道の渋滞を緩和し、運転手のストレス軽減に貢献します。



騒音対策

盛り土と植樹による自然を活用した防音や、ストリートファニチャーを利用した防音など、国道からの車の騒音を防ぐことと、周辺の地域に敷地内で起こる騒音を対策します。



敷地周辺に配置することで騒音を分散させる

多様な植生による緑の改善

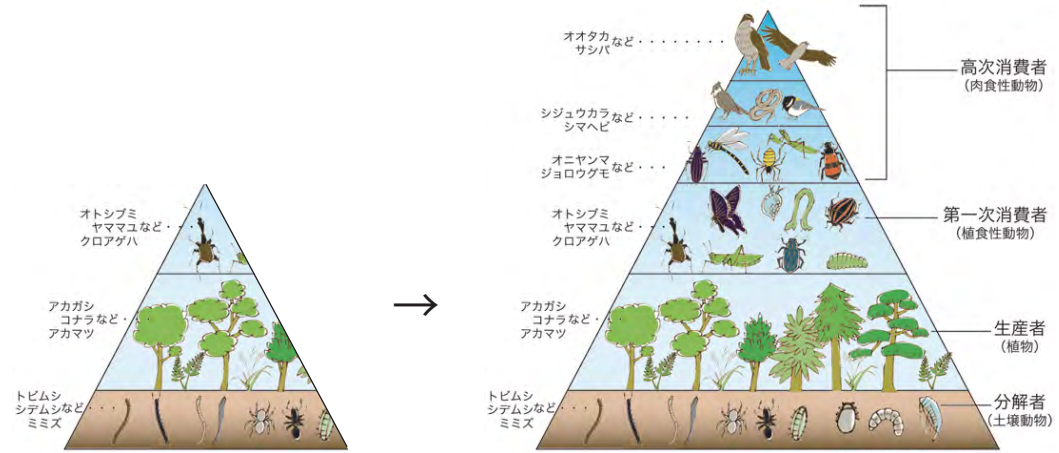
茅ヶ崎の海岸沿いから陸地にかけてで育つ植物や木々を把握し、常緑広葉樹、クロマツとの多層林だけでなく、高木から低木・野草までの多様な植生を配置します。



生物が好む自然へ改善

豊かな生態系

地域の中の限られた緑地でもあるため、自然環境を残して整備をして鳥や虫など豊かな生態系を育む。トビ、ウミウ、ビンズイなどの鳥類、オサムシモドキなどの昆虫類などの海岸沿いに生息する生物とモズ、ヒバリ、チョウゲンボウ、タゲリなどの鳥類などの陸地に生息する生物の結束点となります。



生態系を豊かにします

緑地の景観

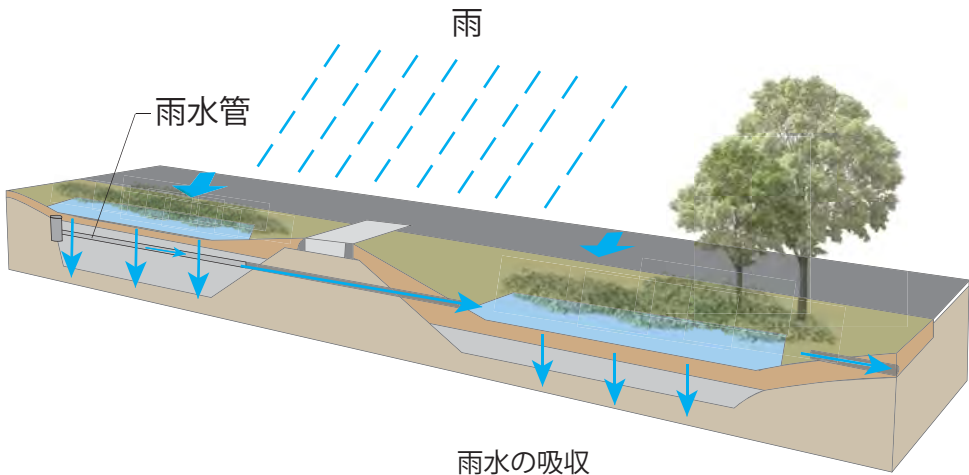
敷地内部は季節によって変化する自然の景観と、イベントの開催によっていつでも誰でも楽しく過ごします。ゴルフ場としてではなく、地域の全員でシェアする大きな庭を計画します。



季節によって変化する風景

グリーンインフラ

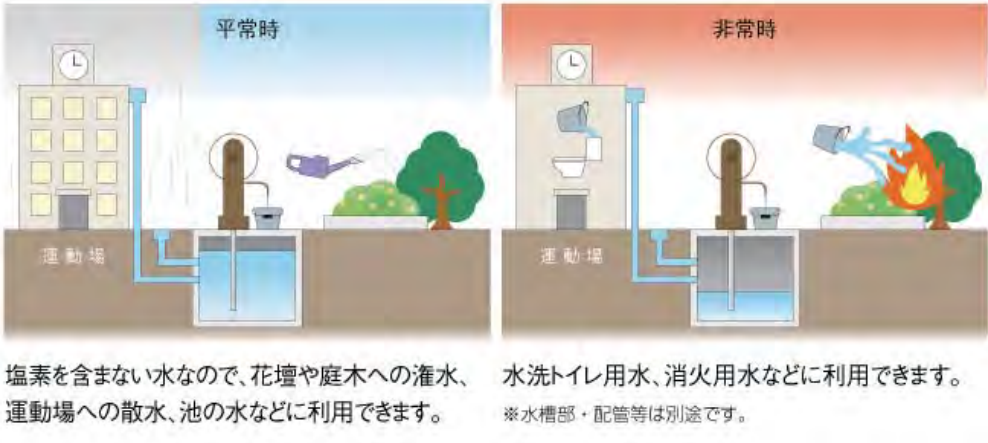
緑地帯は洪水時に水をスポンジのように吸収する効果があります。20 万㎡にもおよぶ緑地で水を浸透させ洪水被害を抑えることで、洪水時、住宅部への被害を最小限に抑えます。また、ゴルフ場の緩やかに連続する起伏は、緑地部に水のたまる場所を作り出すので、豪雨時にも住宅部への被害を抑えることが出来ます。



雨水貯水

広大な起伏のある敷地を利用して雨水の貯水機能を設けます。

近年の大震災によって被災地では水不足が深刻な問題となっています。生活用水の水源として雨水活用は有効であり、トイレの流し水や非常用水として利用を試みます。



道から連続する集まる場

網目状に広がる道とは別に、デッキなどの面としてのみんなで集まってくつろげる場所を計画します。道と連続させることで、気軽に立ち寄れ、談笑や日向ぼっこなどそれぞれの生活に沿ったアクティビティができる場所を計画します。



道と連続したデッキ空間

バリアフリーへの配慮の取り組み

施設内の豊かな自然の中で、五感を刺激し運動や活動を通して健康を目指します。既存のホールを残し道を整備することで、ゆるやかな傾斜などを利用して段差などレベル差によるバリアを少なくします。ベビーカーをおす方や小さな子供、高齢者にとっても快適なウォーキング空間を提供します。



段差のない動線

事業の手法（運営までの事業推進体制）

ワークショップを通したコミュニティデザイン

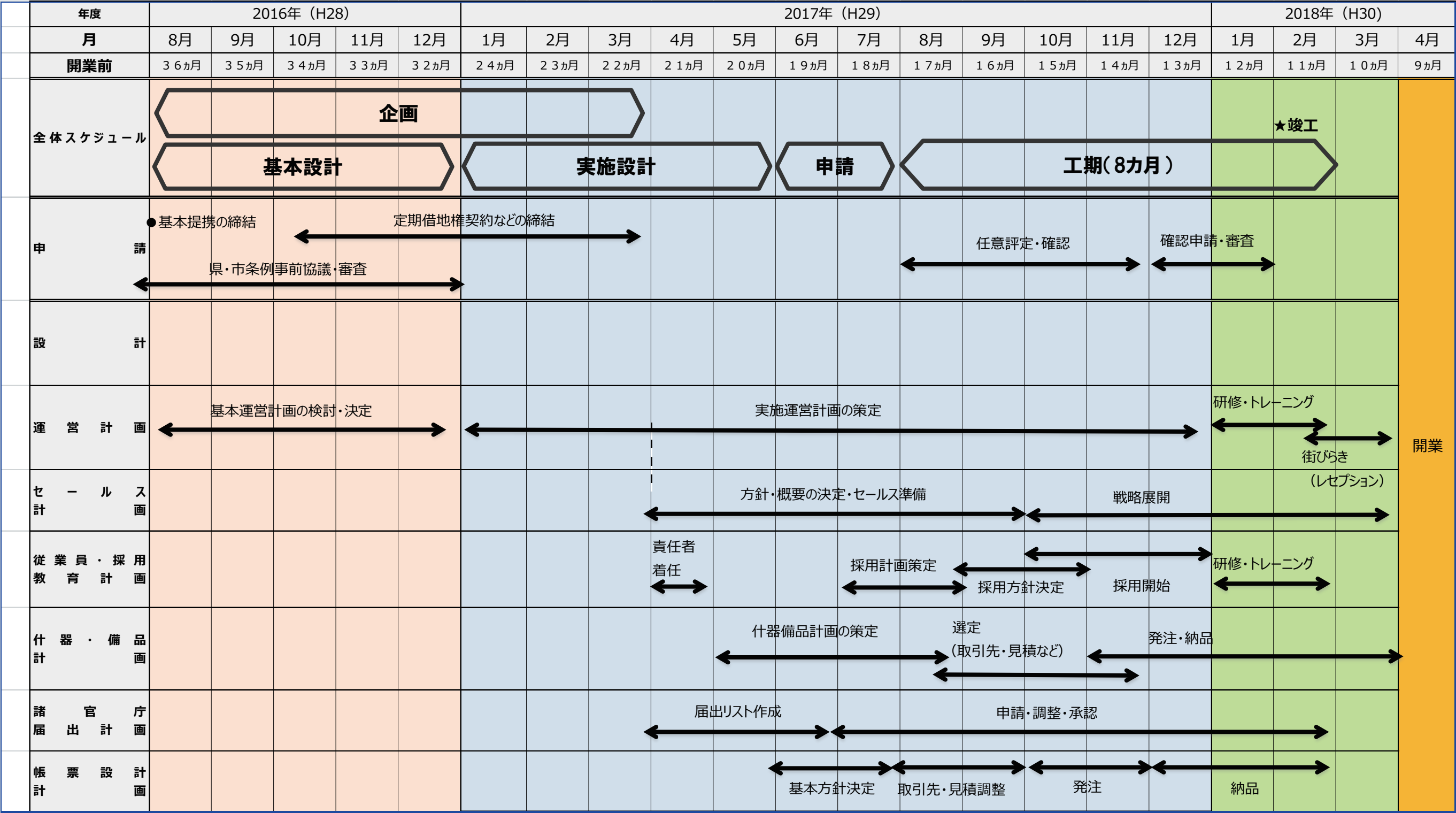
コミュニティデザインを進めるには、計画段階からの「公共空間づくりへの市民参加」が必要であり、そのための様々な市民参加手法の導入を行います。また、市民参加のプログラムの構築や活動の場づくりなど「市民が主役となる行動計画」を進めることで市民活動の輪を広げます。さらに、これらの市民活動の取り組みを支える仕組みや役割分担などを「市民と行政の協働による仕組み」として取り組みます。

ワークショップスケジュール		設計スケジュール
日時	内容	内容
●		
	WS1	
●		街を歩き地域にあるものを探し、 ヒアリングをもとにプログラム作成 × 空間イメージ作成 WS 用模型作成 × プラン作成 × 細かな布の内装、緑化の種類の検討 × 実施図面作成
●	WS2	
●	WS3	
●	WS4	
●	WS5	
●		
↓		

借受希望期間（30～50年）



年間スケジュール



借受希望期間 (30～50年)

これまでの事業実績

■自社ブランドホテル「SETRE」（セトレ）の経営・運営



ここで出会った物語が
明日のわたしの一部になる

セトレグループが一番大切にしたいこと。それは「人と人、人と地域のつながり」です。
時代の中で見失われてきた数々の宝物、地域に眠る「物語」を新たな「価値」に変えてお客様にお届けしたい。人と人、人と地域の絆を結んでいきたい。私たちはそんな「コミュニティホテル」を目指しています。



ホテルセトレ 【兵庫県・神戸市】
明石海峡大橋のたもとにある「海辺の絶景宿日本一」に選ばれた SETRE1 号店。



セトレハイランドヴィラ姫路 【兵庫県・姫路市】
明姫路の町の奥屋敷「広嶺山」に佇む癒しの宿。過ごしをテーマにした SETRE2 号店。



セトレ マリーナびわ湖 【滋賀県・守山市】
「琵琶湖との共生」をテーマに、建築から運営に至るまで地域の資源を活かした SETRE3 号店。



セトレ グラバースハウス長崎 【長崎県・長崎市】
長崎の季刊誌「楽」のメディアとコラボレーションしたホテル。九州初の SETRE4 号店。

■地域資源利活用 of 取り組み事例



取組事例 兵庫県・神戸市
1 “生産者”とつながるレストラン
顔の見える生産者様から届いた食材を、想いをのせて調理するだけでなく、月に1度は、生産者様をレストランへお招きし「こだわりや、飼育・生産方法など」をお客様に直接語っていただいています。食を通じて、お客様と生産者が自然に繋がるような空間を提供する活動です。



取組事例 滋賀県・守山市
2 産業と技術を守る“県産材”を活用した建築と家具
日本の林業や伝統技法を守るために始まったプロジェクト。県産材の家具や、地元の左官職人が手掛ける土壁など、その土地にある資源や人を結集してつくったホテル。定期的にホテルのこだわりを伝えるための「館内ツアー」を行っています。



取組事例 兵庫県・姫路市
3 お客様と一緒に育てる“無農薬ファーム”
姫路市夢前町にある農地に、ホテルの自社農園（SORANIWA FARM）が誕生。無農薬で育てたパワー溢れる野菜を育てています。お客様と一緒に、種まきや収穫など、自分の手で育てた無農薬の野菜をレストランで味わっていただく活動です。



取組事例 長崎県・長崎市
4 地元の人も知らない魅力を届けるホテルの“本棚”
長崎人も知らない長崎を伝えたい。そんな想いで、季刊誌「楽」とコラボレーションしたロビーラウンジは、長崎の本棚。12のカテゴリーに分かれ、文化や歴史、伝統、習慣まで長崎を再発見できる空間です。メディアで紹介された情報がホテルで体験できる新しい試みを始めています。